



© Patrick Chhna

ジゼル・ヴィエンヌ | Gisèle Vienne

1976年生まれ。哲学を学んだ後、フランス国立高等人形劇芸術学校に在学。振付家、演出家、パフォーマー、美術家として活躍。小説家のデニス・クーパーとのコラボレーションのほか、写真やインスタレーション作品も積極的に発表している。2018年には、KYOTO EXPERIMENT で鮮烈な印象を与えた『CROWD』で、フランスの批評家協会賞の最優秀賞を受賞。



エティエンヌ・ビドー＝レイ | Etienne Bideau-Rey

1975年生まれ。ベルギーのサン＝リュック美術学院、リエージュ王立美術アカデミー、フランスの国立高等人形劇芸術学院で学ぶ。振付家・演出家の活動の他に、ドローイングや彫刻も制作。2000年にマルセル・ブルースティン・ブランシェ職業財団賞を受賞。最初の舞台作品をジゼル・ヴィエンヌと共に手掛ける。

出演 | Cast



朝倉千恵子 | Chieko Asakura | ※オーディションにより選抜
東京藝術大学大学院卒業。2014年よりパフォーマンスの制作を始める。現在、俳優としてフリーランスで関東を拠点に活動中。2017年、MEDIA PRACTICE16-17にて『日々淡々とその日にそなえる』『そのあとふりかえる、わたし、別のわたし、別のだれか』を発表。2017年よりチュルフィッチュ『三月の5日間 リクリエーション』に参加。2019年、MEDIA PRACTICE 18-19にて『流れうつるわたしの複数』を発表。



大石紗基子 | Sakiko Oishi
5歳よりバレエを始める。2005年、フランス、マルセイユ国立バレエ学校に入学し、首席で卒業。2006年、Cellule d'Insertion Professionnelle に所属し、マルセイユバレエ団やBallet D'Europe で経験を積む。2009年、CCN Ballet De Lorraine (ロレーヌバレエ団)に入団。その後ウィリアム・フォーサイス、トワイラ・サープ、マース・カニンガム、ジゼル・ヴィエンヌ、マーサ・グレアムなど多種多様な振付家の作品を踊る。現在はフリーランスダンサーとしてフランスを拠点に多数のプロジェクトに参加している。



高瀬瑠子 | Yoko Takase | ※オーディションにより選抜
幼少よりモダンバレエを始め、後に橘バレエ学校にてクラシックバレエを学ぶ。Austria Ballet Company-Tokyoを経て、現在は骨で動ける身体を探し、コンテンポラリーダンサーとして関西を拠点に活動中。こうべ全国洋舞コンクールモダンダンス部門1位受賞。青木尚哉、中村恩恵、近藤良平等の作品に出演。自作自演も発表する傍ら、白井晃演出、森山開次振付『Lost Memory Theatre』『夢の劇』、CM等に出演し、踊りを通して演劇やメディア活動での表現も探求している。



花鳥 令 | Rei Hanashima | ※オーディションにより選抜
NY、カナダ、ヨーロッパなどでトレーニングを積み、2012年に英国 Rambert School を卒業。カンパニーデラシネラ、印象派、NODA・MAP、I COULD NEVER BE A DANCER ほか多数の作品に出演。舞台だけではなく大学や美術館、世界遺産でのパフォーマンスのほかに、海外フェスティバルに招聘されるなど幅広く活動。現在フリーランスとして関東を拠点に活動中。PV・映画、舞台等の振付も行う。



藤田彩佳 | Ayaka Fujita | ※オーディションにより選抜
5歳よりバレエを始める。法村友井バレエ学校で法村牧緒らに師事。高校卒業後にスイスのルードラベジャールバレエ学校に入学しクラシックバレエや、グラハムテクニックをミシェルガスカルらに師事。卒業後ポルトガルのkale companhia de dancaに入団。退団後Noism準メンバーとして活動。現在フリーランスとして関西を拠点に活動中。



堀内 恵 | Megumi Horiuchi | ※オーディションにより選抜
大阪ダンス&アクターズ専門学校卒業。2年間ニューヨークに留学。日本に帰国後、ニューヨークで学んだモダンダンス、コンテンポラリーダンスをベースに自分のスタイルを追求している。現在フリーランスとして関西を拠点に活動中。また、フィルムカメラで自身が撮影した写真の展示活動も行っている。

レパトリーの創造について

ロームシアター京都が、2017年度から取り組んでいるプログラムで、公立劇場が主体的に作品制作に取り組み、劇場のレパトリー演目として時代を超えて未来永く上演されることを念頭にプロデュースします。また、作品創造のプロセスを通じて、俳優、ドラマトルク、制作者等の専門人材の育成や観客育成のための関連プログラムを企画し、レパトリーの創造から各地域における劇場文化をつくることを目指します。

ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ

『ショールームダミーズ #4』

Gisèle Vienne and Etienne Bideau-Rey
Showroomdummies #4

2020.2.8[土] 19:00 / 2.9[日] 15:00

ロームシアター京都 サウスホール

演出・振付・舞台美術 || ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ
出演 || 朝倉千恵子、大石紗基子、高瀬瑠子、花鳥令、藤田彩佳、堀内恵
音楽 || ビーター・レーバーク
照明 || バトリック・リウー

振付・演出アシスタント || 仁田晶凱
音響 || 瀧口翔
衣装スタイリスト || Ryang
ヘアメイク || ****
舞台監督 || 川村剛史(ロームシアター京都)
制作 || 長野夏織、齋藤啓、寺田貴美子、川崎陽子

企画製作 || ロームシアター京都
主催 || ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市協賛 || 京都信用金庫
2019年度 日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業
助成 || 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ日本



[チケット(全席指定)] 一般4,000円 / ユース(25歳以下)2,000円(発売中)

Tickets (Reserved seating): Adult ¥4,000 Youth (Up to 25) ¥2,000 (Now on sale)

◆9月21日[土] 一般発売開始

◆9月14日[土] フレンズ会員(オンライン会員)・Club会員・京響友の会会員先行発売

*ユースチケットをご購入の方は、公演当日、証明書のご提示が必要です
*未就学児入場不可。12歳以下は保護者同伴の上、ご来場ください。
*演出の都合上、開演後は本来のお席にご案内できない場合がございます。

■ロームシアター京都 オンラインチケット

※24時間購入可、要事前登録(無料) https://www.e-get.jp/kyoto/pt/

■ロームシアター京都チケットカウンター

TEL.075-746-3201 (窓口・電話とも10:00～19:00 / 年中無休 ※臨時休館日を除く)

■京都コンサートホール チケットカウンター

TEL.075-711-3231 (窓口・電話とも10:00～17:00 / 第1・3月曜日休館 ※休日の場合は翌日)

■チケットぴあ TEL.0570-02-9999 [Pコード497-347] http://t.pia.jp/

■ローソンチケット TEL.0570-084-005 [Lコード:52973] http://l-tike.com/

■e+ (イープラス) http://eplus.jp/showroomdummies-4/

[託児サービス(要事前予約)] 詳細はロームシアター京都ウェブサイトでご確認ください。

[お問合せ] ロームシアター京都チケットカウンター TEL.075-746-3201



[アクセス]

ロームシアター京都

〒606-8342京都市左京区岡崎最勝寺町13

●京都市営地下鉄東西線「東山」駅下車1番

出口より徒歩約10分 ●京阪電鉄「神宮丸太

町」駅下車2番出口より徒歩約13分 ●市バス

32・46系統 京都岡崎ループ「岡崎公園 美術

館・平安神宮前」下車徒歩約5分 ●市バス

31・201・202・203・206系統「東山二条・

岡崎公園口」下車徒歩約5分

https://rohmtheatrekyoto.jp/



ロームシアター京都<レパトリー>の創造>
ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ

『ショールームダミーズ #4』
2020.2.8[Sat] 19:00 / 2.9[Sun] 15:00
ロームシアター京都
サウスホール

Gisèle Vienne and Etienne Bideau-Rey

ロームシアター京都<レパートリーの創造>

ジゼル・ヴィエンヌ、エティエンヌ・ビドー＝レイ

『ショールームダミーズ #4』

欲望と破滅、美と退廃、生と死——。

世界各地で議論を巻き起こす異才ジゼル・ヴィエンヌが
初期代表作を再創造!

自ら製作した人形を用い、美しくも不穏な予感に満ちた物語世界を構築するジゼル・ヴィエンヌ。暴力や性をめぐるさまざまなタブーを取り上げつつ、生と死、欲望と破滅、秩序と荒廃といった両極の美学を探求するその作品は、アヴィニヨン演劇祭をはじめ世界各地の芸術祭、劇場で、賛否両論を巻き起こしてきた。

今回、ロームシアター京都であらたに制作されるのは、エティエンヌ・ビドー＝レイとの共作で2001年に初演された『ショールームダミーズ』の最新版。マゾッホの小説『毛皮を着たヴィーナス』をモチーフにした本作は、マネキンとダンサーが共存する空間で、規範と欲望、快楽の関係を紐解こうとするもの。今回ははじめて出演者を女性に限定し、ステレオタイプの“男女”から離れた、より自由な眼差しでクリエイションに臨む。

生命を持たない“あるがまま”のマネキンに対し、社会の中で互いに関係することを求められる“生身”の人間たち。彼女らが舞台上で繰り広げる物語は、観る者を思わぬ深淵へと誘うだろう。



Showroomdummies #4